



遊休農地解消



西推進委員
田鶴野地区



村田農業委員
田鶴野地区

私は一昨年より農地利用最適化推進委員となり、遊休農地の確認、農地のパトロールなどの活動をしています。

私の住む田鶴野地区は、遊休農地は少ないですが、長年農業委員を務めた亡き父からは、手つかずのまま放置された遊休農地が市内にあることは聞いておりました。それから数十年経ちますが、未だに解決しておりません。

推進委員に就任してから、農業委員、事務局職員、私の三人で土地所有者と話し合いを続け、今年春頃から雑木の伐採、資材の撤去が進み、解決しつつあります。先頃の秋の彼岸にはそのことを父

田鶴野地区 (豊岡地域)



の墓前に報告しました。

私が担当する田鶴野地区（耕作面積223ヘクタール）は、豊岡市街の北側に位置し中央部に円山川が流れ、東西に二分されています。

昔は田鶴野東部の円山川下流域は低湿地が多く、農家は水に難儀していました。私も幼少期ごろ、稲わらを舟に載せて収穫しているのを目にしたものでした。昭和40年頃になると、土地改良工事が進み、大型の農業機械も入るようになりました。

私は仕事柄、市内のあらゆる地域に出かけますが、山間部の狭隘な場所にも農地が点在しているのを見て驚くことがあります。

昔の人々が苦勞して開墾し、耕作してきた農地を今まで守り続けてきたことに頭が下がります。

農地利用最適化推進委員のひとりとして、今後も農地を大切に守り続けたいと思います。

（推進委員 西 登巳夫）

獣害から農地を守るためには、山林とりわけ里山整備が最も重要ですが、近年、山林整備は国産木材需要の低迷と急速な農林業人口の減少により、放棄山林が多くを占めるよう



桑田推進委員
高橋地区



上坂農業委員
高橋地区

東側の国道426号沿いの9区です。農地は約190ヘクタールあり、主に水稲が栽培され、他にピーマン、スイートコーン、ソバ等が作付けされています。

当地は中山間地が多く、農地の畦畔が大きく草刈り作業と排水路管理等が大きな負担となっています。

また、獣害が多く発生し、メッシュフェンス柵敷対策は、ほぼ100パーセント実施しています。フェンスは、シカには効果がありますが、イノシシ・クマ・アナグマ等にはほとんど効果がなく、フェンスは破壊され、修復に費用と作業の負担が増大しています。

高橋地区 (但東地域)



あわせて昨今の異常気象により山林崩壊が進み農地・用排水路へ土砂流入も多発し、農家の負担はますます増える一方です。

人口減少が進み、限界集落がそう遠くない現状で、農地を守るための対策を、地域住民・行政一体となつた取り組みが急務だと考えています。

地域の推進委員として遊休農地利用意向調査、農地集積化、離農農地貸借相談等、農地パトロールを定期的に実施しながら、少しでも遊休農地解消ができるよう活動したいと思います。

皆さまのご協力をよろしく申し上げます。

（推進委員 桑田 均）



優良農地を守るフェンス



市長と意見交換

農産物の高付加価値化を図り、安全・安心な豊岡ブランドの醸成を推進したい。

(2) 地産地消の推進について

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛や外食産業の営業制限は農産物の消費量を押し下げ、農家は販売価格の下落に苦しんでいます。

一方、内食いわゆる巣ごもり需要の増加によって、消費者のニーズは、より一層安全・安心な農産物へと高まりをみせ、地産地消などへ移行すると思われれます。

このような状況の下、「コウノトリ育む農法」のお米や「コウノトリの舞」ブランドの農産物を中心とした安全・安心な豊岡ブランド農産物の普及をさらにすすめて、関係機関との連携により食品スーパーや飲食店等への豊岡産農産物の流通の拡大・強化など、豊岡産農産物の消費推進を図るための施策を講じられたい。

また、余剰野菜を子ども食堂や生活困窮者などに提供できるフードバンク活動などの支援の仕組みづくりを検討されたい。

(3) 食農教育の推進について

次代を担う子どもたちや若い世代が農業に興味・関心を持つために、農業団体や食品関連企業とも連携し、地域・学校・園において、その地域の伝統野菜や行事食などについて学ぶ食農教育を積極的に進められたい。

6 その他

(1) 「スマート農業」の推進について

「スマート農業」は、農業者の労力軽減や課題解決による農家の働き方改革に大変有益であると考えます。

しかしながら、農業者の認知度は比較的高いものの、導入の実現にはまだ課題もあり、将来的な普及拡大に期待するところではあります。

今後、生産現場への実装のためには、引き続き、「スマート農業」に関する有益性や最新情報、活用事例等の情報発信を積極的に行っていくことが必要と考えます。

一方、導入費用が高額なものも多いため、レンタルやリースなどのサービス提供や補助制度の充実により、農業者が現場へ導入しやすい仕組みづくりについて継続して取り組まれたい。

(2) 「農福連携」の仕組み作りについて

農業者の減少や高齢化の進行にもない、基盤産業である農業の将来にわたる継続のためには、人材や労働力の確保は急務であります。

農福連携をはじめとする農業者以外の方への農作業委託は、労働力不足で悩む農業者にとっては非常に有益であります。そのマッチングが難しく、実現にはまだ課題があるのが実情であります。マッチングにより、農福双方の課題を解決すると共に、共通の達成目標をもつことにより、農業分野だけでなく地域全体の活性化につながることを期待されます。

多様な業種連携の取り組みの一つとして、地元企業と連携するなど農福連携の仕組み作りを努められたい。

ぶどう栽培に挑戦してみませんか

市内生産者 46 名加入。ピオーネ主体に、人気のシャインマスカット栽培拡大中。新規栽培者の育成支援。

進物ぶどう、ふるさと納税返礼品等、豊岡ぶどうの販売拡大に取り組んでいます。

たじま農協 葡萄部 豊岡営農生活センター TEL 24-3641
たじまんま TEL 22-0300